

中学校 夜スへを導入しては 答 難しい

問

西森常晴

東京都の和田中学が行っている夜ス[※]を町に導入する考えは。

答

教育長

次元の高い取り組みと考える。

特に優れた生徒を育てることは喜ばしいことだが、費用の負担、参加しない者との格差の心配、保護者の理解など配慮すべき課題が多い。

答

教育委員長

四十年間、機会均等を念頭に置き実践指導してきた。

三月八日、NHKで「日本人の学力」という番組を視聴し、和田中のやり方は、参考にする必要があると感じた。

問

西森

昔、六年生担任の先生が、勉強好きな児童に時間外個人授業（早朝）を行なった。その児童は市内の私立中、高を経、自治医大に進み、現在、故郷の診療所の院長として地域の医療に貢献している。

小・中で基礎学力をつけることは当然だが、能力の高い子には、さらに力をつけてやる指導も大事では。

機会均等に重点を置いた現状では、伸びる子の芽を摘み町を離れる若い親が増えるのでは。

答

教育長

研究の必要はあると思うが、現時点では難しい。

※夜ス（有料の補習授業・二年生の成績上位者が対象、二万円前後の費用で週三回、放課後と土曜日に民間の塾の先生が行う）

3年後 仁淀高校がなくなる

答 残念でならない

問

西森

仁淀高校の最後の入学試験が行われた。

三年後には、仁淀高校はなくなる。
存続できる努力はしたか。

答

教育長

十二年、当時の首長らを中心に「仁淀高等学校振興対策協議会」をつくり、県教育長や地元選出の県議会議員への要望活動を行ってきた。

できる限りの対策は取ったと考えるが、残念でならない。

問

西森

できるだけ努力とはどういう努力か。

答

教育長

十八年七月二十七・二十八・三十一日に地区別の意見交換会を行ったが、参加者が非常に少なかった。

問

西森

今年の小学校の卒業生は三十七人。三年後、町内の高校一年生は三十七人。

県の方針は、存続の絶対条件は一学年二学級以上だ。本気に存続を考え

答

教育長

手元にないので、後で提出する。

吾川村時代から仁淀高校に「漫画学科」を新設して、全国募集を提案した。協議会で議論されたか。
会議録があれば見せて欲しい。

るなら、町外から同数の生徒が入学しないと数が足りない。

石川県七尾市は、七校あった高校が三校になった。園止め対策として、俳優の仲代達矢さんの協力を得て、「演劇科」を新設、全国から応募があった。



存続運動は空回りしたのではないかと仁淀高校（大渡）

胃カメラ 小さくならないか 答 買ったばかり

問

西 森

大崎診療所の胃カメラだが、小さくならないか。

答

副町長

現在のカメラ（直径九㎜）は、十七年度に、一

三六五万円（内補助金六八二万円）で購入したばかり。最近五㎜のものが使われだし、好評のようだ。

価格は二五〇万円だが買ったばかりで補助対象になりにくい。患者の負担を少なくすることは重要で検討していきたい。



胃カメラ

茶

有機無農薬で

ブランド化を図れ

答 挑戦する

問

西 森

茶の価格が下がり、大変だ。

答

副町長

厳しい状況だ。耕作放棄地も増え、価格も見通しがたたない。県の指導も得て、地域ブランド化を図り、できれば直販していきたい。

問

西 森

国立静岡病院では、茶のふろでハクセン菌を殺菌、炎症を止めた事例がある。農水省では、「花粉症の治療にカテキンが効くのでは」と、研究中と聞く。勉強してはどうか。

答

企画課長

べにふうきという茶が、花粉症に効くというので、生産部会で導入したと情報が入っている。飲料メーカーでは、小さなペットボトルを二〇〇円程度で販売している。

問

西 森

有機無農薬茶がセールのポイントと考えるが。

答

池川地域振興課長

池川地区で勉強会を立ち上げた。吾川、仁淀の茶農家にも呼びかけ勉強

問

西 森

していきたい。

和歌山県の熊野川上流で柚子の仲間「ジャバラのジュース」が花粉症患者に大人気で生産が追いつかないそうだ。

その気になれば、わが町でも宝物が見つかるかも。

答

企画課長

新しい分野の挑戦を含め、前向きに検討していきたい。



茶摘みが始まった（高瀬）



問

橋本眞一

障害児と保護者が通院、訓練に行く時、タクシー券をガソリン代に使用できないか。

答

保健福祉課長

合併時に協議したが、目的外使用などがありガソリン券は実施していない。今後慎重に検討していく。

答

慎重に検討する

タクシー券を
ガソリン代に使えないか

土居(池川)、森(仁淀) が冷え切った

答 成人式は持ち回りで

問

橋本

成人式も平成二十年で旧町村を一回りしたが、来年からどのようにするのか。

答

教育長

成人式は一月二日に実施。旧三町村を順番に回り門出を祝う正月の行事となった。

各地区で三年に一度となるが、今後も同じ方法での実施を考えている。



成人式は旧3カ町村持ち回りで行われる (1月2日 仁淀多目的研修集会施設)

小学生は286人、中学生は125人

－ 小・中の連携強化を図る －

委員会の報告 教育長 大野 敏光

学校給食に 中国製品はゼロ

中国製食品の学校給食施設での使用状況は、該当する食品はなく、冷凍食品は十分に調査し使用している。

小学生の虐待

南国市で、小学生が虐待死する事件が発生した。本町でも関連機関や地域と連携し深刻な事態にならないように気をつけたい。

要保護児童対策協議会の機能を充実させ、いち早く事態を把握し、関係機関での情報の共有と迅速に対応するため、新たに実務者レベルの組織を立ち上げたい。

長者小、別府小は 完全単式学級に

新学期の児童生徒は、小学校は三七人が卒業し、新入生四四人、全体で二八六人となり四人増。長者小、別府小は児童数増で、完全単式学級となる。

スクールバス

バス運行の体制が大きく変わる。スクールバス、部活関連バスの運行を見直し、新しい運行組織で効率よく児童生徒を送迎する。

耐震工事は大崎小

耐震関連事業は、大崎小を計画、夏休中に完了予定。

学力の向上を図る

学力向上対策は、前回の学力学習状況調査結果



子どもは地域の宝（長者小）

の分析などで、基礎学力の定着を図り、教職員の資質向上に、十分な研究や研修を行い、町の特色を生かした教育に取り組む。

特別教育指導員

また幼児期から小学校、中学校との連携の重要性を感じ、教員人事は管理職レベルの小、中学校間の人事交流を考える。

福原云外 「ふるさと書道展」

生涯学習は本町に縁のある人物、作品を紹介する企画展を行い、福原云外「ふるさと書道展」では、二四〇人の見学があった。

地域資源を 町の宝物として

地域資源を町の宝物として、地域財産を活用し、多くの町民が参加できる生涯学習の環境づくりに努め、自然や郷土の文化遺産を活用し、関係機関と連携し、地域文化の向上と健康で生き甲斐を持つ生活できる地域づくりに努める。